令和５年度【幼稚園評価】

学校法人　鴨谷学園
美 木 多 幼 稚 園

今年度の教職員の自己評価及び学校関係者評価を実施した。日常の保育をみなおし、自己の問題点を定義すると共に評価結果については、更なる問題を提起し全教員で受け止めることによって、改善の方向性を具体的に指し示すことができた。この結果をもとに、来年度も質の高い保育、安全　安心な幼稚園をめざし教職員の資質向上に努めたい。

Ⅰ.教育目標

本園が、４６年の年月をかけて作り完成した独自の保育カリキュラムにより計画的に取り組む。
①幼児期にふさわしい生活習慣を育てる。
②恵まれた環境の中で、豊かな感性を育てる。
③友達との生活を通して、やさしさと思いやりの心を育てる。
④地域、学校との連携を図り心身ともに健康な子どもを育てる。

Ⅱ.今年度の重点目標

① 姉妹園の鳳幼稚園・諏訪森幼稚園とは、毎月３園合同主任会を、毎回会場を変更して実施している。当会議が、情報交換だけにとどまることなく、積極的に子ども達の交流の場を増やし、活動する機会を多く持つことを検討する。
②教育目標達成をめざして、評価項目にそって自己点検・自己評価を実施し教職員自らが客観的に本園を見る目を養い保育内容の改善、施設の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標にする。
③安全・安心な給食実施および園児に適切な食育を推進するために、理事長・園長をはじめ、管理栄養士および調理担当職員を交えての給食会議２ヶ月に１度を開催する。その中で子どもの嗜好を考慮しつつ、新しいメニューや調理方法、調味料の使用提案などを行っている。新しいメニューや季節の献立は月に１度の園だよりに「もぐもぐ」というページを設け、保護者にレシピを公開している。献立は誰でも作りやすく、簡単な調味料を使用し、味付けはシンプルながらも子ども達の嗜好にあったものを検討している。
④管理栄養士を中心に、発達年齢に即した食育を展開していく。
⑤自園調理であるというメリットを活かし、子ども達には常に温かいものは温かく、冷たいものは冷たく給食を提供するよう心掛けている。また、担任と連携し、発達に合った給食の量を調整している。

Ⅲ.評価項目と取り組みの状況

	評価項目	評価目標		取り組み状況
1	教育方針 目標	教育方針、目標は園の特色を生かしたものになっている。	A	園周辺は、自然豊かで、徒歩圏内の自園の田んぼで春の花摘み、収穫体験、どんぐり・落ち葉拾いなどができる場所があり活動を行っている。また、秋の槇尾山グリーンランドやハイキングなど自然にふれる機会も設けている。子ども達の活動にふさわしい広い園庭、施設設備を充実している。姉妹園との情報を共有し、交流活動を行い、それぞれの良さを生かしている。 体操・声楽・器楽・絵画・英語の専科講師の指導による幅広い教育活動である。

2		園の教育方針や目標を保護者の理解を促すように、取り組んでいる。	B	園だよりや毎日更新のブログ、個人懇談会、保育参観、行事、入園説明会などで、方針内容を保護者に伝え、園の教育方針への理解を促すようにしている。 連絡ノートや降園時の保護者との関わりの中で、担任と保護者の情報交換を図っている。 毎月の園だよりに、週ごとの指導計画や行事内容の詳細を伝え、保護者への周知と情報共有を図っている。
3	教育課程の編成	教育課程の編成は、幼稚園の教育要領を踏まえ園の教育方針に従い編成されている。	B	毎月姉妹園と理事長・園長・主任との連絡会を実施し、保育内容の検討や見直しを行っている。 園内では毎月カリキュラムの打合せを行ったり、学年ごとに週案の作成を行い、バランスよく編成している。 学年ごとに次週の週案の見通しをたて、余裕をもった指導計画に十分配慮している。
4	教育内容の保護者への周知	園の教育、保育のねらいや内容を保護者にわかりやすく伝える工夫をしている。	A	家庭訪問や個人懇談、参観を通して保護者に保育のねらいや内容をわかりやすく伝えている。 月ごとの各学年のねらいやカリキュラム、行事、給食の献立や保健だよりを１冊にまとめた園だよりを毎月発行している。 入園説明会を開催し、本園の教育方針や特色について詳しく説明している。 園見学を随時受付け、園の教育、保育のねらいや内容について、常時情報開示を行っている。
5	教育環境の構成	幼児を温かく受け入れる環境を作り人と関わる力が育つような配慮をしている。	B	広い園庭での自由遊びの場で学年を超えて遊びの場が広がるように保育形態を工夫して縦割り保育を導入し、異年齢活動の中で育つ環境を整えている。 インターンシップ生や実習生を積極的に受け入れたり、姉妹園の子どもと交流したりして人と関わる力が育つように配慮している。
6		子どもがさまざまな文化を受けいれる配慮や環境、交流を整備している。	B	年少、年中、年長組は週１回ネイティブの先生による外国語活動を楽しんでいる。また、英語のカリキュラムを編成し年間を通して計画的に取り組んでいる。 旬の食材を用いた伝統食を季節に応じて提供し、日本文化の良さを伝えている。
7	教職員同士の協力・連携	指導上配慮を必要とする幼児について、全教職員で十分に話し合い、対応する。	B	発達の遅れが見られる子どもは、各学年、各クラスのみの見解にとどまらず、臨床心理士や堺市の巡回指導も受けて、園全体で該当園児に対して適切な支援を心がけている。 大阪府が開催する研修会に積極的に参加し、見解を深めている。

8	研修、研究会への参加	幼児の体力づくり、幼児期の発達、発育を促す運動遊びやその指導法を研究している。	B	本園体操講師による実技研修会を定期的に行い、研修会に積極的に参加している。 乾布摩擦、マラソン、登山、プール活動など年間計画に従い、進めている。また、縄跳びなど継続して体力作りをする運動は、一年を通して計画的に指導をしている。
9		健康面や食物のアレルギーなどの問題について取り組んでいる。	A	園内でのけがや発熱時には担任だけの判断ではなく担当者を中心に園長　保護者、関係するものも意見も聞いて適切な判断に努めている。 食物アレルギーについては、管理栄養士が個々の子どもの実態に応じてとりくんでいる。
10	健康、安全衛生への配慮	体調が悪そうな時は静かに休ませ、検温するなど適切な処置を行い、状況によっては、家庭へ連絡している。	A	感染症の予防対策のひとつとして手洗いうがい、また手洗い後の消毒に努めている。 体調の変化や怪我などは担任一人で判断するのではなく、担当者や園長の指導の上に対処している。 体温が３７度５分を超えると家庭に連絡し、保護者在宅の場合は園より送り届けている。
11		トイレの清掃や使い方について発達段階相応に配慮し正しい使い方を具体的に伝える。	A	トイレの衛生、清掃は日々のチエックを怠らないようにし、清掃は担任や担当者で徹底している。 スリッパの並べ方や便器の使い方、トイレットペーパーの使い方など、各学年年齢に応じた指導を行っている。
12	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について全職員が共通理解を持てるように取り組んでいる。	B	遊具の安全点検を実施し必要に応じて補修をし、園内においては毎月１日を安全点検の日として、整理や不具合な個所を確認し安全点検を行っている。 園の防災計画に基づいて地震・火災を想定した避難訓練を行っている。 感染症が広まるような可能性がある場合は、直ちに保護者にアプリ配信や文書で伝え、園内における怪我、嘔吐などは、本園のマニュアルに従って対処している。また、インフルエンザ等の感染症発生時には堺市に連絡し、連携している。
13	情報の発信と受信	子どもの様子は、おたより帳やアプリ配信等を活用して伝えあっている。	B	日々の子どもの様子は、保護者と直接話したり、おたより帳や電話で伝えている。 通園バスの運行状況は GPS 機能で配信するとともに、園行事の天候による急な変更はアプリ配信で伝えている。
14		保護者のニーズを踏まえた園経営に努めている。	B	運動会、作品展、発表会の園行事ごとにアンケートをとり、結果のまとめ及び、次年度への課題、改善点も明記し保護者に報告し、改善できるところは改善していく。

15	子育て支援事業と地域への開放と支援	支援事業の一環とし預かり保育　自由登園・家族登園の充実を図るよう努めている。	A	年間２回の土曜日に、希望する子どもたちが登園し、異年齢交流をめざした縦割り保育の中で、通常の保育では経験できない活動に参加している。 年間５回家族がそろって参加する家族登園を実施している。３月の家族登園は卒園児も招待してのふれあい広場としている。 預かり保育は早朝・延長、また、長期休暇中もあり、毎日３時におやつを食べ、週３回は管理栄養士が手作りのおやつを提供している。
		地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	A	未就園親子登園や園庭開放、臨床心理士、園長校長経験者による発達相談や子育て相談も行い、在園児以外の相談も受付けており、地域の子育て支援に大きく貢献している。

Ⅳ. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み
1	カリキュラムの編成と充実	新学習指導要領に記載されている子どもの姿を具現化できるよう計画的なカリキュラムの編成を工夫する。 種々の行事が子どもの確かな成長につながるよう、行事の意義やねらいを十分に把握して計画立案を行う。
2	姉妹園との交流活動の充実	３園の年長組の交流は３回実施している。一層中身の濃い交流ができるよう内容の検討をしていく。
3	教職員の資質向上	研究保育をスキル向上の機会とする。様々な行事の準備は、見通しを持って、職員間の偏りがないように配慮する。 園外の研修に積極的に参加し、教職員の資質向上に努める。
4	家庭との連携の充実	アンケートや懇談会の実施により、保護者のニーズの把握に努めると共に園の方針を明確に伝え、よりよい園を目指し更に改善に努める。
5	地域との交流、連携の充実	「美木多中学校区健全育成協議会」の構成団体の一員として、協議会主催の行事に参加の予定である。
6	異文化とかかわる機会の充実	英語専科の外国人教員との関わりを深め、子ども達に異文化と触れ合う機会を多くする。併せて、自国の文化の良さを理解するために、季節ごとの行事や、季節の食材を用いた給食の提供に努める。

Ⅴ. 学校関係者の評価

緑豊かな自然環境を活かしての自然体験活動を大切にした保育活動や、充実した園庭の遊具や園内に展示された絵画作品等々、教育的配慮がなされた中での保育活動を通して、園児たちは元気いっぱい園生活を楽しんでいる。運動会や作品展、発表会での子どもたちの表情は自信に満ち、生き生きとしている。また、一人ひとりの子どもたちが、自分の目標に向かって鉄棒や縄跳びの練習に励んでいる。その姿を見たとき、美木多幼稚園の教育効果の素晴らしさをひしひしと感じる。

元堺市立福泉中央小学校校長　角谷　芳子

美木多幼稚園では、園を取り巻く豊かな自然を生かし、日常的に自然と触れ合いながら子どもたちが日々を過ごすと共に、園内には素晴らしい芸術家の絵画作品が多数展示され、園児たちは毎日その作品を目にすることができる。園庭の遊具も充実しており、教員のサポートのもと、園児が思い思いに遊びながら、それらの遊びを通して様々なことを主体的に学ぶ仕掛けが用意されている。こうした環境のもと、日々豊かな教育活動が展開されており、美木多幼稚園では、園児たちが明るく伸び伸びと、健やかにに育っている姿を見ることができる。

また、カリキュラムの中には特筆すべきものとして絵画、運動、音楽、英語などの高い専門性を持った講師が直接指導にあたり、園児たちはもとより、教員の研修の場ともなっており、その結果、教育活動の高い水準を実現している。その成果は、運動会、作品展、音楽発表会において発揮されている。

何よりも教員や保育者が子どもたち一人一人の個性や特徴を理解しながら日々の教育、保育が実践されており、サポート態勢も充実していることから、その子らしさを存分に伸ばすことが大切にされた教育が実現されている。

保護者への情報発信という点でも毎日のブログ更新や園だよりを通じて十分になされており、信頼される幼稚園としての実績を積んでいる。

キンダーカウンセラー（公認心理師）　森　美寿子